

透水コンクリート 実証施工 説明会

見学者から感嘆の声

(株)JCC(本社・鹿児島市)は27日、国分市の舗装材JCSーパーパウダー(特許出願中)による環境保全資材「透水コンクリート」の実証施工説明会を開催した。



透水性の高さを証明した説明会 =国分市の現地で

説明会では原田智和専務が「環境問題がクローズアップされる中、日本初の画期的な発明である透水コンクリートを全国発信することになった。乱開発による大洪水発生や、ヒートアイランド現象、地下水汲み上げによる地中の水不足などを解消するには、雨水を地下に戻すことは急務であり、透水コンクリートの潜在的な能力は計り知れない」と挨拶した後、民間で多くの施工実績を持ち、日本各地の公共事業で試験施工が始まっていること、

「透水コンクリート」の施工工程や特性を説明した後、実際に水をかけて透水性の高さを証明した。会場を隣接する「ふく福国分店(株)寿福産業」駐車場に移して行われた施工現場見学会では、バケツで水を撒いて従来の



幅員16mの実物大模型を実体験した参加者 =名瀬市の名瀬小学校で

バリアフリーウォッチング

16歳児模倣型でシミュレーション

バリアフリーウォッチング実行委員会(里島光一郎会長)は25日、名瀬市中心商店街において第5回バリアフリーウォッチングを実施した。同会

・提言等を行った。また名瀬小学校校庭に設置した16歳児模倣型の実物大模型を車イスや身障者の方などが体験した。午後1時30分に市役所前で出発式を行った後、障害者10人を含む一行は中央通りアーケード街や各商店街の通りを歩き、高齢者や身体に障害を持つ人たちの視点で点検して回った。特に目立ったのが歩道に止めてある自転車、中には車イスで



区画整理のまちづくりで解説した講演会 =名瀬市役所で

末広港まちづくり協議会

広い道路は必要不可欠

末広港まちづくり協議会(泉弘子会長)主催の「区画整理のまちづくり」講演会が26日、名瀬市役所4階会議室で

山口氏はまず、「区画整理事業にはまちづくりの軸としてある程度広い道路が必要で、それをどういった性格付けやイメージにするかは住民側の役割である」とした。そして第一段階として計画決定までに将来のまちづくりの構想をできる範囲でまとめることが重要だと話した。また氏が手掛ける神戸市松本地区を例に挙げ、歩道を3mと6.5mにし広い方に植栽も含めてせせらぎのある歩道など特色ある通りづくりの提案や地区計画などのルール検討の必要性を訴えた上で「市と地元住民が目標を共有することが大事。共通認識、共通目標を持つことが大きな力になる」とした。

明興テクノス妙円寺参り

192人が元気に行進

(株)明興テクノス(山ノ内文治社長)は26日、鹿児島三大行事の一つである妙円寺参りに参加し、同社とグループ企業の社員、家族192人が鹿児島市から日置郡伊集院町徳重神社までの約20kmを行進した。同日は、午前6時10分参加者一同がそろいの法被をまとって西鹿児島駅前を通過し、西田橋付近で



元気よく行進する参加者 =鹿児島市の西田橋付近で

日置地区造園協会

2,000本の苗木を無料配布

日置地区造園協会(坂口力会長)は、このほど日置郡吹上町で開かれた「ふるさと祭り」で、日頃お世話になっている地



地域住民への感謝を込めた苗木の無料配布 =吹上町のふるさと祭り会場内で

域住民への感謝の意味を込めて、苗木の無料配布を行った。同協会では、年1回各

地区交代で事業を推進しており、昨年、伊集院町の妙円寺参りで初の苗木無料配布を行い、今年は

自動振替で 鹿児島建設新聞 099-227-5100へ